

終了時評価表

1. 案件の概要	
事業名（対象国名）：草の根技術協力事業（地域経済活性化特別枠） 「セベランプライ市の歴史・自然を活かしたまちづくりプロジェクトー「横浜の都市デザイン」新興国へのノウハウ移転ー」（マレーシア）	
事業実施団体名：横浜市	分野：都市開発
事業実施期間：2015年12月25日～2018年12月24日	事業費総額：51,624,940円
対象地域：セベランプライ市ブキマタジャン地区	ターゲットグループ：セベランプライ市職員及びブキマタジャン地区住民
所管国内機関：JICA 横浜センター	カウンターパート機関：セベランプライ市
1-1 協力の背景と概要	
<横浜市と都市デザイン>	
<p>横浜市は1971年に都市デザインの専門部署を設置して以来、先駆的に都市デザイン活動を推進し、まちづくりに「美的・人間的価値」、「自然・歴史文化的価値」などを取り入れ、優良な都市景観の形成に大きな役割を果たしてきた。本市の都市デザイン部門は1980年代から1990年代前半にかけて、マレーシア・ペナン市（ジョージタウン地区）において道路部門とも連携した総合的なまちづくり交流（相互に市職員を派遣）を行うなど、都市デザイン分野での国際交流の経験も有する。</p> <p>横浜では行政以外にも、横浜市立大学グローバル都市協力研究センターを始めとする大学等で、地域の課題に重点を置いた都市デザイン実習などが盛んにおこなわれているほか、市民の間でも、住民グループが身近な街並みに関する自主的な提案活動を行っている他、まちづくりを支援するNPOや個人のコーディネーターも多数活躍してきた。</p>	
<セベランプライ市の現況・事業開始の経緯>	
<p>マレー半島西海岸に位置するセベランプライ市は、海を挟んだ対岸ペナン市（ペナン島）と2市でペナン州を構成する。ペナン市は世界遺産に指定されたジョージタウン地区の街並みや、ビーチリゾートが所在することから多くの観光客を集めるが、セベランプライ市まで足を延ばす観光客は少ない。一方でセベランプライ市内にも、歴史的な建築物が残った地区（ブキマタジャン地区旧市街）があり、このような景観を活かしたまちづくりを行うポテンシャルがあった。</p> <p>事業開始当時のセベランプライ市長であったマイムナー氏は、1980年代にペナン市職員として横浜市との技術交流に従事していた経験がある。同氏より横浜市や横浜市立大学国吉教授（元・横浜市都市デザイン室長）に対し歴史的景観を活かしたまちづくりの推進について協力要請があったことを契機に、本プロジェクトが開始した。</p> <p>本プロジェクトでは、ブキマタジャン地区の旧市街の歴史や自然を活かしたまちづくりへの着手、セベランプライ市職員の都市デザイン分野での能力開発を主な目標としている。</p>	

1-2 協力内容

(1) 上位目標

地方郊外部のまちを活性化するための、都市デザイン的なアプローチが確立され、マレーシアや他のアジア諸都市において共有され実践される。

(2) プロジェクト目標

セベランプライ市ブキマタジャン地区旧市街地の一部区域において、横浜の都市デザインのノウハウを用いた、地域の歴史や自然を活かしたモデル的なまちづくりが着手されている。

(3) アウトプット

1. セベランプライ市都市計画局職員の都市デザイン関連スキルの向上
2. 横浜市の専門家とセベランプライ市職員による、ブキマタジャン地区の魅力と活力を向上させるための都市デザインの策定
3. 街並み環境整備に向けた付属設備等の制作支援

(4) 活動

- 1-1 セベランプライ市都市計画局職員を横浜市に招聘し研修
- 1-2 横浜市（市・民間）の専門家を派遣し、現地研修を実施
- 2-1 事業実施団体及び協力・支援団体等による対象地区の詳細調査
- 2-2 セベランプライ市の都市デザインに基づいた、地域資産の効果的な保全活用についての助言
- 2-3 セベランプライ市と横浜市による、ブキマタジャン地区の都市デザインの策定
- 3-1 街並みに調和する公共サインのデザイン制作
- 3-2 街並みに調和するストリートファニチャーのデザイン制作
- 3-3 セベランプライ市による街並み整備をモニタリングし、必要に応じフォローアップを実施

2. 評価結果

妥当性 (Are these the right things to do?)

本事業の妥当性は、政策との整合性、ニーズとの適合性、アプローチの妥当性の3つの観点から高いと判断される。

マレーシアの開発政策との整合性

マレーシア第11次計画（2016-2020）においては、ペナン州を含む北部回廊経済地域の重点産業を農業、製造、観光、物流、教育と定めている（Strategy G2）。地方自治体と民間セクター、コミュニティ、NGOの連携の推進が掲げられている（Strategy E3, E4）。また、同計画の最後に記載されている「2020年以降の展望」において、歴史的遺産や地域の芸術・文化がよく保存され、高く評価され、国際的に知られることを目標としている。

我が国の援助実施方針との整合性

マレーシアに対する国別開発協力方針（平成29年5月）によると、我が国は「協力パートナーとしての関係構築」を重視して援助を行うこととしている。とりわけ、重点分野として「先進国入りに

向けた均衡のとれた発展の支援」を掲げ、行政能力の向上にも取り組むこととされている。また、平成 27 年 5 月の日マレーシア二国間首脳会談においても、官民における管理能力分野において研修等の協力を強化することとしている。

この点、本事業はセベランプライ市の行政官の能力開発を目的としていることや、大学・地域コミュニティを含む民間関係者との連携も焦点に当てた研修となっていることから、この援助方針に合致していると考ええる。

対象地域のニーズとの適合性

マレー半島西海岸に位置するセベランプライ市は、海を挟んだ対岸ペナン市（ペナン島）と 2 市でペナン州を構成する。ペナン市は世界遺産に指定されたジョージタウン地区の街並みや、ビーチリゾートが所在することから多くの観光客を集めるが、セベランプライ市まで足を延ばす観光客は少ない。

同一州内でありながら、両市の経済格差は拡大しており、セベランプライ市では特徴的な地域資産を活かした街並み整備等により、まちの活性化を図ることが課題となっていた。

アプローチの妥当性

1980年代に実施した、横浜市とペナン市の技術交流で培った経験や人脈を活用することで、効果的にプロジェクトを実施した。横浜と現地のまちづくりの専門家で組織された「横浜セベランプライまちづくり友好委員会」の現地スタッフ、横浜市立大学が事務局を務めるアカデミックコンソーシアムの一員である「国立マレーシア科学大学（USM）」とも連携してプロジェクトを実施することで、効果的な事業遂行につながっている。

また、事業を行っていく中でセベランプライ市の行政職員だけでなく、ブキマタジャン地区の住民・ローカル・コミュニティを取り込んだ「コミュニティエンゲージメント」の重要性が提唱され、このプロジェクトの重要な要素となっている。

実績とプロセス (Are we doing what we said we would do?)

① 成果の達成状況

本事業における成果（アウトプット）は、当初予定通りの事業期間内において概ね達成された。具体的な活動と成果の詳細については、成果項目別に記載する。

■アウトプット1 セベランプライ市都市計画局職員の都市デザイン関連スキルの向上

指標 1 セベランプライ市職員の横浜招聘研修実施（対象者 2 名×30 日間×3 回）及び横浜市の専門家による派遣研修実施（対象者 20 名×18 回）

- ・ セベランプライ市職員の横浜招聘研修を 2 回（参加したセベランプライ市職員 4 名×17 日間×1 回＋6 名×9 日間×1 回）実施
- ・ 横浜側専門家による現地派遣研修を 11 回（参加した横浜側専門家延べ 85 人）
- ・ ブキマタジャン地区の交通量調査が、初めてセベランプライ市の職員により実施され、その調査結果はマレーシア科学大学（USM）の協力により解析が行われた。これにより今後ブキマタジャン

地区のまちづくりを行っていく上での重要な基礎データが整った。また、地区計画としてこのような定量的な交通調査・解析に基づいて「まちづくり・デザイン」を行っていくという手法がセベランプライ市職員に移転された。

- ・ 横浜での受入研修の際には、横浜市の都市デザインの取組について講義を行うとともに、関連する場所の視察を行い、都市デザインに関する基礎的な知識を伝達した。視察の際には、みなとみらい21地区や港北ニュータウンのような新市街地、関内地区のような既成市街地の両方を含め、それぞれにおけるまちづくり・都市デザインの考え方について伝達するとともに、創造都市（クリエイティブシティ）の取組についても伝達した。
- ・ 歴史的建造物の保全活用に関する制度について講義や視察（横浜市、鎌倉市、川崎市、小田原市等）を行い、具体的な運用方法やローカルアイデンティティを住民に持ってもらうための手法について技術を伝達した。
- ・ 都市デザインの推進する上での行政と民間の関係の作り方やコミュニティエンゲージメントの進め方について、講義を行うとともに、日本の様々なタイプのまちの活動を生み出している拠点（個人で行っているもの、NPOにより運営されているもの、行政が携わっているもの）の視察を通じて伝達した。セベランプライでは、実際に住民参加型のセミナーやイベントの実施支援、ローカル・コミュニティとの意見交換等、現地での実践を支援した。

■アウトプット2 横浜市の専門家とセベランプライ市職員による、ブキマタジャン地区の魅力と活力を向上させるための都市デザインの策定

指標2 ブキマタジャン地区旧市街約18haの都市デザインが策定される

- ・ ブキマタジャン地区旧市街約18haの都市デザインの方向性を示すものとして「都市デザインプラン（UD Plan）」を策定した
- ・ また、都市デザインプラン（UD Plan）の実現に向けて、①歴史的建造物や街並み形成、公共空間の使い方等についての「都市デザインガイドライン（UD Guideline）」の案を策定するとともに②各種プロジェクト（指標3の付属設備整備等）を実施した。
- ・ ガイドライン案の策定にあたっては、ブキマタジャン地区のリサーチをセベランプライ市や住民を共に行い、歴史的建造物をはじめとする地域資源の発掘を行った（図書館での文献調査も併せて実施）。また、交通量や人口動態、時間帯ごとの街の状況の調査など、ガイドライン策定にあたって必要な基礎データを収集するための調査を行った。また、ラカンBM、ユーランアソシエイツ等のローカル・コミュニティからのヒアリングや、セベランプライ市によるアンケート調査を通じて、住民の意見聴取も行った。
- ・ 今後、ガイドラインの実際の運用や今後の改定に向け、セベランプライ市とブキマタジャン地区の住民による協議会を作り、どのような役割分担で行っていくのかが検討される
- ・ 今後、コミュニティからのフィードバックを反映した上で、既存の都市計画であるLAP（Local Area Plan）との整合性について調整し、法的な効力を持たせるためにセベランプライ市議会の承認を得る

参考：各取組の関係性

都市デザインプラン (UD Plan)

地区のローカルアイデンティティとして大切にすべき街の構造やショップハウス等の資源を明らかにし、街の将来の方向性を明らかにする。



都市デザインガイドライン

(UD Guidelines)

ローカルアイデンティティを街の魅力として生かしていくために、歴史的建造物や街並み形成、公共空間の使い方についてのガイドラインと、それを運用していくための行政と地域の協働体制について定める。



主要プロジェクト (Main Projects)

- ① 歴史を活かしたまちづくり
例) 歴史的建造物認定、ガイドブック、都市デザインガイドライン、ガイドウォーク等
- ② 現市場を中心としたにぎわいづくり
例) 階段ペインティング、歩行者天国の社会実験
- ③ 快適な歩行者空間づくり
例) サイドレーン装飾、歩行者天国の社会実験
- ④ コミュニティの活動の場づくり
例) まちづくりセンターの発足、現市場の活用
- ⑤ 情報発信
例) ガイドブック、現市場の活用

■アウトプット3 街並み環境整備に向けた付属設備等の制作支援

指標3 セバランプライ市職員と横浜市の専門家との協働作業により、公共サイン及びストリートファニチャーの見本4点が制作される

- ・ インフォメーションボード (3点) : 地区住民のローカルアイデンティティを再確認すること、および来街者へのPRを目的として地区の歴史や見どころについて記載したインフォメーションボードを作成した。当初は1か所に設置予定であったが、3か所に設置することとなった。
- ・ 歴史的建造物認定証 (4点) : 地区内には歴史的な建造物が存在するが、多くは十分に保全されておらず傷んでいる建物が多い状況にある。このような建物を歴史的建造物として認定し、住民・来街者に見えるように掲示することで、建造物の価値を再認識することを目的としている。
- ・ ガイドブック (英語 1500部、マレー語 500部) : 上記インフォメーションボード、歴史的建造物認定証と同じ目的で、来街者に配布するために作成。
- ・ 現市場正面階段ペインティング (1か所) : 現市場の2階は今後住民活動の拠点として活用するべく検討され、実証実験も行われている。この場所を地区のシンボルとし、2階へ上ることを促

進めるために正面階段のペインティングを実施。図柄はブキマタジャン地区の昔の様子が分かるようなものとし、地区住民のローカルアイデンティティ涵養にも寄与することも目的としている。

- ・ サイドレーン装飾（1か所）：本街路空間は、隣接する日新独立中学の通学路になるなど、地区にとっては重要な街路空間である一方、環境が整備されていなかった。セベランプライ市が2018年2月から5月にかけて実施した社会実験を経て、街路空間でのアクティビティが生まれるためには歩きやすく、魅力的な環境の整備が必要であることが再確認された。今後地区で検討されている街路空間の環境整備の第一歩として、日除け（サンシェード）を本プロジェクトにおいて設置した。

（共通）制作過程におけるコミュニティエンゲージメント

これらの付属設備の制作にあたっては、セベランプライ市でデザイン案を作成するとともに、ローカル・コミュニティのラカン BM も地域住民の観点からデザイン案を作成した。

発注の仕様については、横浜側の現地訪問時の地区住民からのヒアリングや、セベランプライ市長と地区住民のミーティングを経て決定された。

② 投入実績

日本側からの専門家派遣、C/P 側の関係者を招聘し実施した本邦研修、資機材投入は、概ね計画通りに実施された。専門家派遣及び本邦研修受入実績、並びに資機材投入実績は、下記一覧の通り。

〈専門家派遣及び本邦研修受入実績〉

年度	種別	活動期間	対象者名	所属	実施内容
2015	派遣	2016. 1. 25- 1. 30	国吉 直行	横浜市立大学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後のプロジェクトの進め方に関する意見交換 ・ 対象地区（ブキマタジャン地区）の現地調査、ローカルコミュニティとの意見交換により現地の状況把握 ・ 横浜の都市デザインの事例や、まちづくりにおいて地域住民の積極的な関与を引き出す手法等の講義 ・ マレーシア科学大学と横浜市立大学とともにアカデミックコンソーシアムのメンバーとしての学術的立場からの協力についての意見交換
			岡田 公夫		
			藤岡 麻理子		
			原 洋一		
			森谷 章子		
			宇野 元太		
			親松 俊彦	横浜セベランプライまちづくり友好委員会	
			リム・フイ・ツァン		
			片岡 公一	民間専門家	
			角野 涉	横浜市	
			関山 誠		
			三枝 忠裕		
関谷 聡					
桂 有生					
2016	受入	2016. 5. 16- 6. 3 研修：17日間	Nur Faradilla	セベランプライ市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 横浜の都市デザインの講義・視察により、都市デザインに関する基礎的な知識を習得 ・ 都市デザインを進める中での行政と民間の関係の作り方やコミュニティエンゲージメントのあり方について学んだ。 ・ 歴史的建造物の保全活用に関する制度の講義・視察により、具体的な運用方法等について技術を習得 ・ 交通量調査・解析の技術習得
			Binti Fahrudin		
			Mohd Hazren bin Mohd Zahir		
			Nurhazwani Binti Mohd Ramle		
Baderul Amin	Bin Abdul Hamid				
Bin Abdul Hamid					

	派遣	2016. 7. 31- 8. 6	国吉 直行 鈴木 伸治 中西 正彦 藤岡 麻理子 親松 俊彦 リム・フイ・ツァン 角野 渉 三枝 忠裕 宮坂 修義 松本 尚子 桂 有生	横浜市立大学 横浜セベランブライま ちづくり友好委員会 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> セベランブライ市によるブキマタジャン地区の全体計画の提案を元に議論 現市場の取り壊し予定について、継続利用をするよう提言 地域コミュニティとの打ち合わせを実施、市民と行政の協力の必要性について協議 	
	派遣	2016. 11. 12- 11. 18	国吉 直行 藤岡 麻理子 親松 俊彦 リム・フイ・ツァン 片岡 公一 角野 渉 桂 有生 松本 尚子	横浜市立大学 横浜セベランブライま ちづくり友好委員会 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 保存が決定した現市場について、今後の活用方法の議論 初代ペナン州知事の家を活用方法について議論 地区内の日新独立中学、寺院、ショップハウスの見学。 	
	派遣	2017. 2. 2- 2. 18	国吉 直行 鈴木 伸治 中西 正彦 藤岡 麻理子 親松 俊彦 リム・フイ・ツァン 片岡 公一 角野 渉 宮坂 修義 桂 有生	横浜市立大学 横浜セベランブライま ちづくり友好委員会 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 今後のブキマタジャン地区の計画について、横浜側からの提案 現市場について、今後の活用方法の議論 地区内に整備を予定するポケットパークについて議論 ショップハウス保存のためのガイドライン作成について議論 まちづくりセンターの運営について議論 交通量調査の実施指導 	
	派遣	2017. 3. 27- 3. 30(JICA経費 外の出張)	国吉 直行 親松 俊彦 リム・フイ・ツァン	横浜市立大学 横浜セベランブライま ちづくり友好委員会	<ul style="list-style-type: none"> 2017 年度の実施内容について協議、その他進捗状況の確認 	
	2017	派遣	2017. 4. 25- 5. 1	国吉 直行 親松 俊彦 リム・フイ・ツァン 片岡 公一 松本 尚子 小田嶋 鉄朗	横浜市立大学 横浜セベランブライま ちづくり友好委員会 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 今後の進捗について協議 本プロジェクトについてセベランブライ市長による記者発表 ブキマタジャン地区で、行政・住民を交えた意見交換の場であるタウンホールトークを実施
		受入	2017. 5. 12- 5. 25 研修：9日間	Mohd Hazren bin Mohd Zahir Shaqhrony Bin Md Yusoff Mohd Raisul Muhaddisin Bin Hamad Mohd Ubaidillah Bin Abdullah Mohd Naim Bin Mohd Ali Shafida Azyanti Binti Mohd Shafie	セベランブライ市	<ul style="list-style-type: none"> 横浜の都市デザインの取組に関する講義、視察 ブキマタジャン地区の市場活用の参考とするため中央卸売市場を視察 横浜市や小田原市のまちづくり拠点、運営ノウハウについて視察 歴史的建造物の保全、活用方法に関する講義、視察 都市デザインを進める上でのコミュニティエンゲージメントのあり方について習得 交通量調査・解析の技術習得
		派遣	2017. 7. 21- 7. 25	藤岡 麻理子 リム・フイ・ツァン 坂入 啓太	横浜市立大学 横浜セベランブライま ちづくり友好委員会 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> ブキマタジャン地区の観光資源、魅力発掘を目的とした街歩きイベント「BM ウォーク 1.0」がセベランブライ市主催で開催され、住民、行政関係者等約 80 名が参加

			桂 有生 玉井 猛		<ul style="list-style-type: none"> セベランプライ市ブキマタジャン地区、パタワース地区、ペナン市ジョージタウン地区の現地調査 今後の街歩きイベントの実施や新現市場の活用について議論
	派遣	2017.8.13-8.18	国吉 直行 鈴木 伸治 藤岡 麻理子 リム・フイ・ツァン 角野 涉 山本 忍	横浜市立大学 横浜セベランプライまちづくり友好委員会 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 現市場の2階活用について議論するタウンホールトークの実施 セベランプライ市長交代に伴う新市長表敬前市長（新ペナン市長に就任）表敬 JICA マレーシア事務所への中間報告書の提出
	派遣	2018.2.5-2.9	国吉 直行 中西 正彦 藤岡 麻理子 親松 俊彦 リム・フイ・ツァン 片岡 公一 松本 尚子 小田嶋 鉄朗 桂 有生	横浜市立大学 横浜セベランプライまちづくり友好委員会 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 新現市場の活用について協議 都市デザインガイドラインの内容協議（セベランプライ市5か年戦略計画との関連についても協議） サイドレーンで実施中の社会実験について協議 交通量調査実施、確認 コミュニティエンゲージメント（住民主導）による都市デザインの手法について紹介 付属設備の仕様について協議 ローカル・コミュニティ「ユーランアソシエイツ」によるショップハウス改修の視察
2018	派遣	2018.7.1-7.7	国吉 直行 藤岡 麻理子 親松 俊彦 リム・フイ・ツァン 角野 涉 松本 尚子 桂 有生	横浜市立大学 横浜セベランプライまちづくり友好委員会 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 現市場の補強状況、ユーランアソシエイツによるショップハウス改修状況の確認 新現市場の活用について協議 ペナン州知事への説明 在ペナン日本国総領事への説明 付属設備の制作内容協議 都市デザインガイドラインの内容協議 交通量調査結果の確認、解析項目の技術指導 地元住民との意見交換
	派遣	2018.9.24-9.29	国吉 直行 鈴木 伸治 中西 正彦 藤岡 麻理子 片岡 公一 桂 有生 桑田 雄飛	横浜市立大学 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 交通量調査の解析結果確認 都市デザインガイドラインの内容協議 付属設備の制作内容協議 地元住民との意見交換 事業終了後の対応について協議
	派遣	2018.12.12-12.16	国吉 直行 中西 正彦 藤岡 麻理子 角野 涉 親松 俊彦 桂 有生 松本 尚子 桑田 雄飛	横浜市立大学 民間専門家 横浜市	<ul style="list-style-type: none"> 付属設備の完了検査 地域住民との意見交換 都市デザインガイドラインの最終確認 新現市場の活用について協議 交通量調査・解析の結果及び手法の今後の活用について協議 事業終了後の対応について協議 オープンセミナー、終了セレモニー

〈資機材投入実績〉

2015年度：無

2016年度：無

2017 年度：無

2018 年度：インフォメーションボード（3 点）、歴史的建造物認定証（4 点）、
ガイドブック（英語 1500 部、マレー語 500 部）、
現市場正面階段ペインティング（1 か所）、サイドレーン装飾（1 か所）

効果 (Are we making any difference?)

■プロジェクト目標の達成度

本事業においては、上記の通り当初計画通りの成果を概ね達成していることから、プロジェクト目標も概ね達成されたと考えられる。

プロジェクト目標 セベランプライ市ブキマタジャン地区旧市街地の一部区域において、横浜の都市デザインのノウハウを用いた、地域の歴史や自然を活かしたモデル的なまちづくりが着手されている。

指標 横浜市とセベランプライ市との協働作業により策定された同地区の都市デザインに基づいて、2018 年までにセベランプライ市がモデル的な街並み整備に向けた活動を開始する。

- ・ 横浜の都市デザインでは、多様な主体による計画への参画、その主体間での横断的かつ現実的な調整、最終的には優れたデザインの都市空間や設備の実装までを行ってきた。そのノウハウを用いてブキマタジャン地区旧市街約 18ha の都市デザイン（都市デザインガイドライン）の案の作成にあたり、セベランプライ市だけでなくマレーシア科学大学（USM）、地域コミュニティ、地域の専門家など、幅広い主体の参画を促し、案の内容に反映した。
- ・ 都市デザインガイドラインの案が策定され、2017 年 4 月に開催されたタウンホールトークや、2018 年 12 月に現地で開催されたオープンセミナーにおいて地域住民にも共有されるとともに、同地区のまちづくりを進めていく気運が醸成された。
- ・ ブキマタジャン地区の今後のまちづくりの中心となる現市場を活用した市民参加型のイベントが 2018 年 8 月（JOM Pi Pasar BM）に開催され、40,000 人の来場者があった。また、サイドレーンを活用した社会実験（2018 年 2 月から 5 月）も実施されるなど、セベランプライ市やブキマタジャン地区の住民による自主的な活動が開始し、本市の都市デザインの政策形成に関するノウハウが伝達され、モデル的な街並み整備に向けた活動が開始されつつあると考える。
- ・ 公共サイン及びストリートファニチャーの見本の制作に際しては、当初歴史的建造物認定証、インフォメーションボードのみの設置を予定していたが、セベランプライ市とブキマタジャン地区住民等との協議の上、ガイドブック、現市場正面階段ペインティング、サイドレーン装飾等も追加で実施することとなった。デザイン決定に際しては、セベランプライ市と地区住民の間で積極的な議論が行われ、最終的なデザインに関しては現地のデザイナーが行った。サイドレーンのシェード、マーケットの階段ペイントについては市、住民の双方より案が提示され、地域性の反映からの視点や、市民参加の今後への期待も込めて地元案を採用している。

- ・ ブキマタジャン地区内で活動する様々なローカル・コミュニティ（ラカン BM、ユーランアソシエイツ）を特定し、セベランプライ市を交えたまちづくりに関する議論が行われた。地区住民とセベランプライ市のまちづくり担当職員との関係が構築されることにより、コミュニティエンゲージメントによるまちづくりが今後も継続する下地が出来上がった。
- ・ サイドレーンの環境整備については、セベランプライ市の計画にも盛り込まれていたが、本事業（草の根技術協力事業）で実施された装飾を端緒として、引き続き街路の環境整備を進めていく道筋が出来た。2018 年 11 月にブキマタジャン地区選出の国会議員の沈志強氏（青少年・スポーツ省副大臣）が、青少年・スポーツ省の事業として 15 万リンギットを投じ「芸術の街路空間」として整備していく意向を示した。サイドレーン装飾に携わったローカル・コミュニティのラカン BM は、この新しい整備事業についても引き続き関わっていく意向。
- ・ 現市場の保存活用や一部機能の留保について、また新市場の建設プランについて、セベランプライ市（ペナン州）に対して横浜側よりコミュニティエンゲージメントや地域の歴史性の反映、トータルデザインの視点から提案を行い、現地において検討が行われている。
- ・ ブキマタジャン地区内にショップハウスを改修した地域住民のためのスペースが、住民主導で開設されるなど、地域住民の中で歴史的建造物を活用したまちづくりへの機運が高まっている。
- ・ ブキマタジャン地区の交通量調査が、初めてセベランプライ市の職員により実施され、その調査結果はマレーシア科学大学（USM）の協力により解析が行われた。これにより今後ブキマタジャン地区のまちづくりを行っていく上での重要な基礎データが整った。また、地区計画としてこのような定量的な交通調査・解析に基づいて「まちづくり・デザイン」を行っていくという手法がセベランプライ市職員に移転されたことは、マレーシア国における先進的な好事例となった。

■上位目標の達成にかかる展望

上述の通り、本事業における成果及びプロジェクト目標は達成されたことから、上位目標についても、中期的な展望が開けている。

上位目標 地方郊外部のまちを活性化するための、都市デザイン的なアプローチが確立され、マレーシアや他のアジア諸都市において共有され実践される

- ・ 2016年9月1日から9月7日に、横浜市立大学とマレーシア科学大学（USM）が連携し、ブキマタジャン地区を対象地を含む、まちづくりに関する国際学生ワークショップ“Conservation in Multicultural Society”を実施した。参加者はマレーシア科学大学（USM）の学生32名、ベトナム国家大学の学生4名、インドネシアのメルチュブアナ大学の学生7名、横浜市立大学の学生14名の計57名。4つの大学の学生は、国籍混合の8グループに分かれ、グループワークを実施。運営にはセベランプライ市職員が一部協力。ワークショップ最終日に、対象地を住みやすく魅力的なまちにするための提案を全体発表会で発表。ブキマタジャン地区でも個別に住民、議員、市職員を対象とした発表会を実施。またこれに合わせてマレーシア科学大学（USM）にて開催された大学間ネットワーク（アカデミックコンソーシアムIACSC）の年次総会・シンポジウムでもポスター発表を行い、プロジェクトの内容を発信した。
- ・ 上記の通り、プロジェクト実施中より結果がアジア各国に対して発信されており、今後の継続

も期待される。

持続性 (How sustainable are the changes?)

下記の理由により、本事業の持続性は高いと判断できる。

- ・ 今後の同地区のまちづくりについて、都市デザイン案とそれに基づいた都市デザインガイドライン案が策定された。これらをベースとして、MPSPとラカンBM、ユーランアソシエイツ等のブキマタジャン地区の地域住民とが主体的に考え、推進していく気運が高まっている。
- ・ 都市計画部署の職員にはガイドラインの作成から、実際のストリートファニチャーの作成まで、一連の過程を経験してもらうことで、重点的に横浜の都市デザインのノウハウ移転を行うと共に、実務部隊であるランドスケープやエンジニア、市場の許認可部署の職員にも同様のノウハウ移転を行うことで、企画から実装までを横断的かつ、スムーズに行うことのできる体制がつけられた。また、セベランプライ市では今後の体制を確保するため、都市デザインを専門に担当する部署の設置計画がペナン州を通して国に申請済みである。
- ・ 上記団体とセベランプライ市職員の関係が構築され、今後両者の連携によりコミュニティエンゲージメントによるまちづくりが継続する下地がある。
- ・ 横浜セベランプライまちづくり友好委員会は、日本側・マレーシア側の双方にメンバーがおり、今後も両都市の交流が断絶することはなく、フォローアップが可能となっている。また、横浜市とセベランプライ市は共にシティネット（アジア太平洋都市間協力ネットワーク）、横浜市立大学とマレーシア科学大学（USM）は共にアカデミックコンソーシアム IACSC に加盟しており、同様に交流を継続する素地がある。
- ・ サイドレーンの環境整備については、セベランプライ市の計画にも盛り込まれていたが、本事業（草の根技術協力事業）で実施された装飾を端緒として、引き続き街路の環境整備を進めていく道筋が出来た。2018年11月にブキマタジャン地区選出の国会議員の沈志強氏（青少年・スポーツ省副大臣）が、青少年・スポーツ省の事業として15万リングットを投じ「芸術の街路空間」として整備していく意向を示した。サイドレーン装飾に携わったローカル・コミュニティのラカンBMは、この新しい整備事業についても引き続き関わっていく意向。

3. 市民参加の観点からの実績

(1) 横浜での状況

視察受入の際に、横浜市や小田原市の様々なタイプのまちの活動を生み出している拠点（まちづくりセンターなど）を視察した。個人で行っているもの、NPO等で運営されているもの、行政が携わっているもの等があり、日本側の市民に視察受入に協力いただいた。

また、2016年5月には本邦研修の一環として来日したマレーシアの都市計画専門家リム・フーイ・シアン氏が「都市デザイン研究会」において、横浜市民、横浜市職員を対象に1980年代のペナン市ジョージタウン地区での技術協力や、今回のセベランプライ市におけるプロジェクトについて講演を行った。

また、セベランプライ市職員の本邦研修の機会を活用し、横浜のNPO「濱橋会」（本プロジェク

トの民間専門家が参画)がハラル対応メニューに関する勉強会をセベランプライ市職員を交え実施した。セベランプライ市職員と横浜市民の交流の機会となるとともに、本市のインバウンド対応に寄与した。

(2) セベランプライでの状況

対象地域であるブキマタジャン地区の住民や、ラカン BM、ユーランアソシエイツというローカル・コミュニティがプロジェクトに関与し、現地での打ち合わせにも参加した。住民参加型のセミナー（2017年4月のタウンホールトーク、2018年12月のオープンセミナー）もブキマタジャン地区で開催し、プロジェクトの内容について議論・共有した（ラカン BM のメンバーによれば、同団体は本プロジェクトの影響により活動を開始し、ローカル・コミュニティの1つになった、とのこと）。

2017年7月には住民・行政関係者等約80名がブキマタジャン地区の観光資源、魅力発掘を目的とした街歩きイベント「BM ウォーク 1.0」がセベランプライ市主催で実施されたほか、2017年8月には現市場2階の活用方法について住民・行政が議論するタウンホールトークが実施された。また、2018年8月には JOM Pi Pasar BM という現市場を活用した市民参加型の文化イベントが開催されるなど、市民主体による活動も活発化している。

4. グッドプラクティス、教訓、提言等

- ・ ブキマタジャン地区にある現市場は、近接する寺院とともに同地区の中心街区を形成していた。プロジェクト実施中に地区の外縁部に新市場建設と現市場解体の計画が立ち上がったが、横浜側が現市場の保存活用をセベランプライ市側に提言した。この提案は受け入れられ、現市場の2階は今後住民活動の拠点として活用するべく検討され、実証実験も行われている。地区の中心街区に、そのような機能が確保されるようになったという点で地区のまちづくりに寄与した。
- ・ セベランプライ市職員と、ブキマタジャン地区の住民・ローカル・コミュニティの間でまちづくりに関する意見交換が活発に行われるようになった。現時点では市職員が住民側の案をそのまま採用する、といったような場面も見受けられるが、将来的には住民の意見を取り入れつつも、まちづくりの専門家として地区全体の計画を行う観点を持ち、住民からの意見を修正・調整できるようになっていくことが望ましい。また、このような体制を確保するため、都市デザインを専門に担当する部署の設置計画がペナン州を通して国に申請済みであり、認可が実現することを期待する。